

たけのこ探検隊

園長 小島 澄人

オタマジャクシが池の中に固まっています。子どもたちは水槽に入れたり、手ですくおうとしたりと、頑張っています。子どもたちを最も引き付けたのがたけのこでした。クラスだよりも、面白い記事がありました。

たけのこ探検隊

(竹組クラスだよりより抜粋)

4月は裏山や自然探検村、園内でもたくさんのたけのこを見ることができます。竹組では1日保育が始まった日、はじめの一步保育園、あかとんぼ保育園、くりの実保育園のお友だちとともに、たけのこ探しをしました。3つのグループに分かれ、男の先生が隊長となりたけのこ探しに行きました。竹組の隊長は成本先生。隊長と一緒にたけのこ探しに出発です。自然探検村では足下のちょっと出ているたけのこを必死に探す竹組さん。「あったよ!」「ここにもあるよ!」次々と見つける竹組の隊員たち。クラスで8本ほどを短時間で見つけました。大きなものを2人で抱えているお友だちも。他のグループと大きさを比べて、どのたけのこが大きい勝負しました。また、クラスで採れたものから3本のたけのこを選んで、大きなかまどでゆでるのですが、どれにする?早くゆであがるのは小さい物、でも大きいほうがみんなで食べる量も多い、竹組では大きい物とちょっとおおきめを2つ選んで、まずは泥を落としました。たらいの水でたわしを使ってゴシゴシゴシと擦ったら交代、たわしが終わったら今度はきれいなお水で洗い流し、男の先生に切れ目を入れてもらってから、かまどに投入。米ぬかと一緒にゆでました。ここからは時間がかかるので、たけのこは男の先生にお任せして、大輔先生と保育園のお友だちとみんなで遊びました。保育園のお友だちとはいっても同じ年長さん。初めましてのお友だちにちょっぴり緊張気味でしたが、鬼ごっこをしてその距離も近くなったようでした。「また遊ぼうね」「たのしかったよ!」お互いに言葉をかけ分れました。たくさん掘ったたけのこは、小さいお友だちでたけのこ掘りには来ることができなかった、たけとんぼ保育園のお友だちにあげることになりました。その後、給食を食べ終えた頃、ゆであがったたけのこが届きました。さすがにその時間から、食べるには帰りの時間に間に合わず、1日冷蔵庫で保存し翌日煮物にして食べました。思った以上に大好評であつという間になりました。採れたてのおいしいたけのこを食べられるのも、柿の実ならではですね。これからも、いろいろ収穫できると思います。そろそろ夏野菜を植える時期です。作物の成長を楽しみにしながらおいしく食べられるといいかなと思っています。

またまた、次は 敦子先生が、たけのこを掘った日に竹組のお友だちに珍しいチョウチョを見せてくれました。実は昨年はじめの一步保育園のちりとりにくっついていていたサナギがふ化したとのこと。それが、「オオミズアオ」という名前の蛾とのことですが、実は「淳絶滅危惧種」。珍しい物を見せていただいた竹組さん。見た目は鮮やかな緑色をした物でした。入れ物に入ったチョウを見ようと、食い入るように囲む子どもたち。成虫になると1週間しか持たないそうです。見せてもらった翌日、保育園のお友だちと自然に帰してあげたそうです。園内には何か珍しい物がまだまだ潜んでいるのかもしれない。